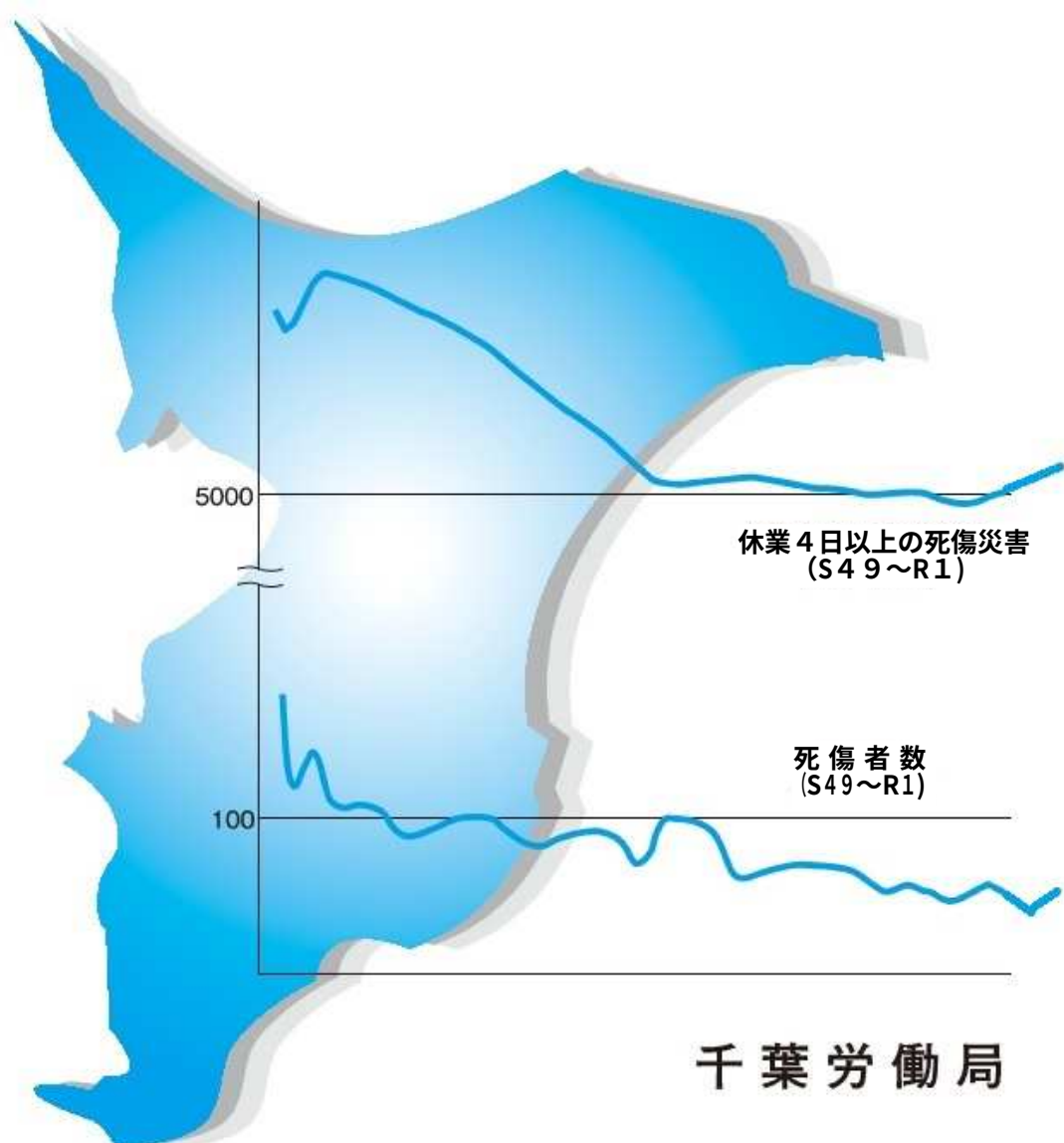
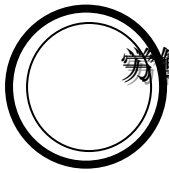


令和2年度

グラフで見る 千葉県の 労働災害の現状





第13次労働災害防止計画

働く方々の一人一人が安全で健康に働ける
「ちば」のために

目次

1	はしがき	1
2	労働災害の推移	2
3	減少傾向がみられない死傷者数、第三次産業は増加傾向	4
4	死亡災害の多い建設業、製造業、運輸交通貨物業	5
5	繰り返される在来型労働災害	6
6	業種によって異なる災害発生のパターン	8
7	監督署別の労働災害発生状況	10
8	高齢者・中小企業に多い死亡災害	11
9	依然として増加傾向の有所見率	12
10	増加傾向にある過労死・精神疾患等の労災補償請求件数	13
11	令和元年の死亡災害	14
12	参考資料（事故の型・起因物分類コード表）	17

1 はしがき

全国の労働災害による死傷者数は長期的には減少傾向を示してきましたが、この4年ほどにおいて基調としては増加傾向を示しており、令和元年は前年の127,329人を1.35%下回る125,611人となりました。また、死亡者数は、5年連続で1,000人を下回り、令和元年は前年の909人を7.04%下回る845人となりました。

千葉県内における令和元年の労働災害は、死傷者数が前年比3.1%増の5,705人となりました。従来から災害が多かった製造業は減少する一方で、建設業は前年より7.4%増加しました。運輸交通貨物業や商業等も増加しました。

死亡者数は、前年より8人(29%)増加し、令和元年は36人となりました。この5年間の事故の型別にみると、墜落・転落災害が最も多く、交通事故がこれに次いでいます。

労働者の健康状況については、令和元年の定期健康診断の結果によると、54%の労働者に何らかの所見が認められ、特に血中脂質、血圧、肝機能に係る有所見率が高くなっています。

なお、平成30年度における脳・心臓疾患の労災保険請求受理件数は前年比7件増の32件となり、精神障害の労災保険請求受理件数は60件と過去最多となりました。

令和2(2020)年度は第13次労働災害防止計画の3年目です。平成29(2017)年と比較して、死亡災害を令和4(2022)年までに15%以上、死傷災害を令和4(2022)年までに5%以上減少させる目標を達成するため、各種対策を推進します。

＜令和2年度主要対策＞

1 死亡労働災害防止対策の徹底

死亡災害の多い建設業については、墜落・転落災害の防止を重点とする対策を推進し、特に高所作業時の墜落防止用保護具としてのフルハーネス型墜落制止用器具の使用の徹底を図ります。製造業については機械に起因する災害の防止に向け、機械設備等の本質安全化を推進するとともに、同種機械災害の再発防止対策の充実を図ります。

2 労働災害を減少させるための重点業種等対策の推進

建設業、製造業、陸上貨物運送事業(荷役作業時の墜落・転落災害防止)のほか、小売業、社会福祉施設、飲食店も重点に災害防止対策を推進します。

さらに全業種を通じて「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進します。

また、近年の高齢者の就労拡大に伴い、高年齢労働者の労働災害が増加していることから、「エイジフレンドリーガイドライン」に基づく職場環境改善対策を推進します。

3 職業性疾病等の防止対策、メンタルヘルス対策、産業保健対策の推進

石綿健康障害防止対策、粉じん障害防止対策、熱中症予防対策、化学物質等安全データシート(SDS)の交付、周知など化学物質による健康障害防止対策、メンタルヘルス対策、健康保持増進対策、受動喫煙防止対策を推進します。

これらの対策を強力に推進するためには、労使をはじめ県民の皆様の御理解と御協力が不可欠です。

この冊子が労働災害、健康障害を防止するための一助になれば幸いと存じます。

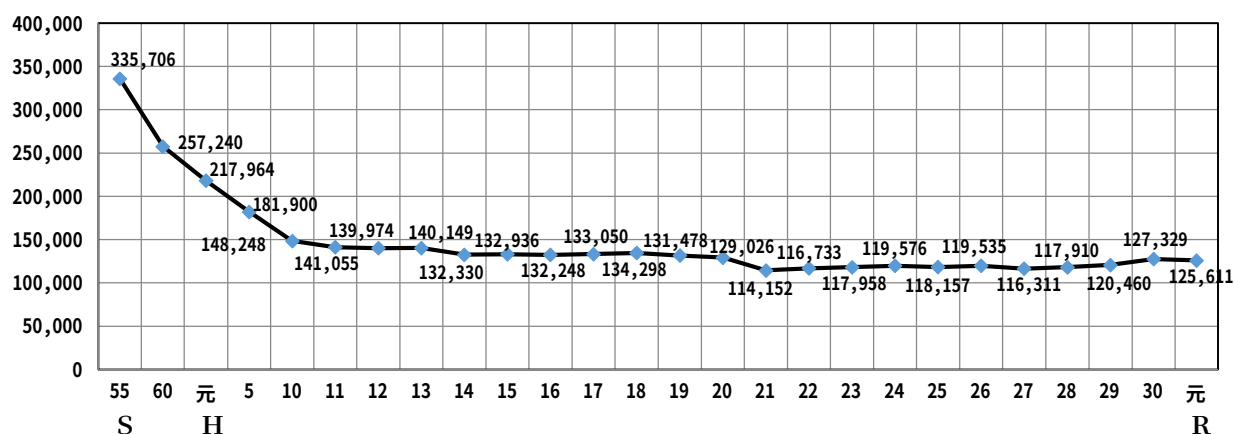
2 労働災害の推移

1. 全 国

労働災害による休業4日以上之死傷者数は、昭和36年の481,686人（休業8日以上之死傷者数）をピークとして長期的には減少してきましたが、この4年ほどにおいて基調としては増加傾向を示しており、令和元年は前年の127,329人を1.35%下回る125,611人となりました。

令和元年の死亡災害は、統計を取り始めて以来過去最少の845人となりました。

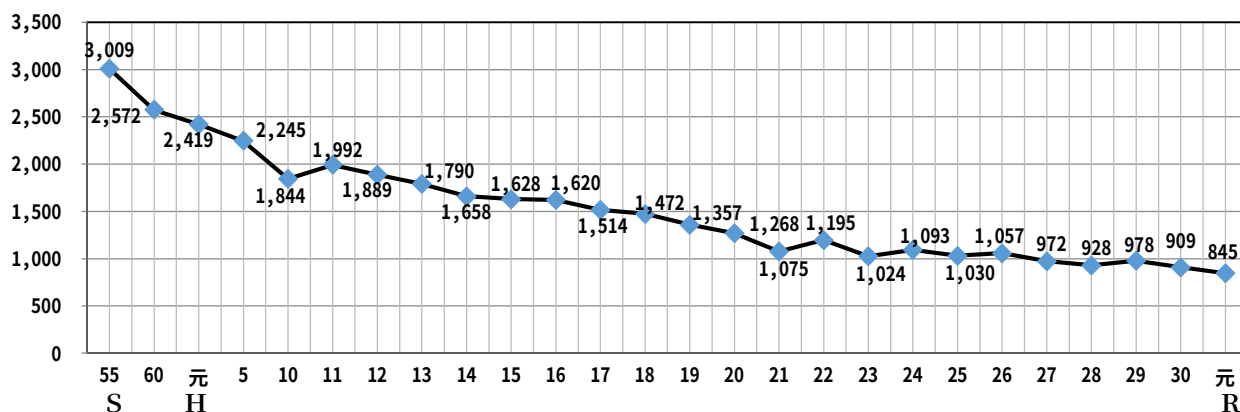
全国における死傷者数の推移（全産業）



（注）平成10年までは労災給付データ、平成11年以降は労働者死傷病報告による。

平成23年は東日本大震災を直接原因とする災害を除く。

全国における死亡者数の推移（全産業）



（注）平成23年は東日本大震災を直接原因とする災害は除く。

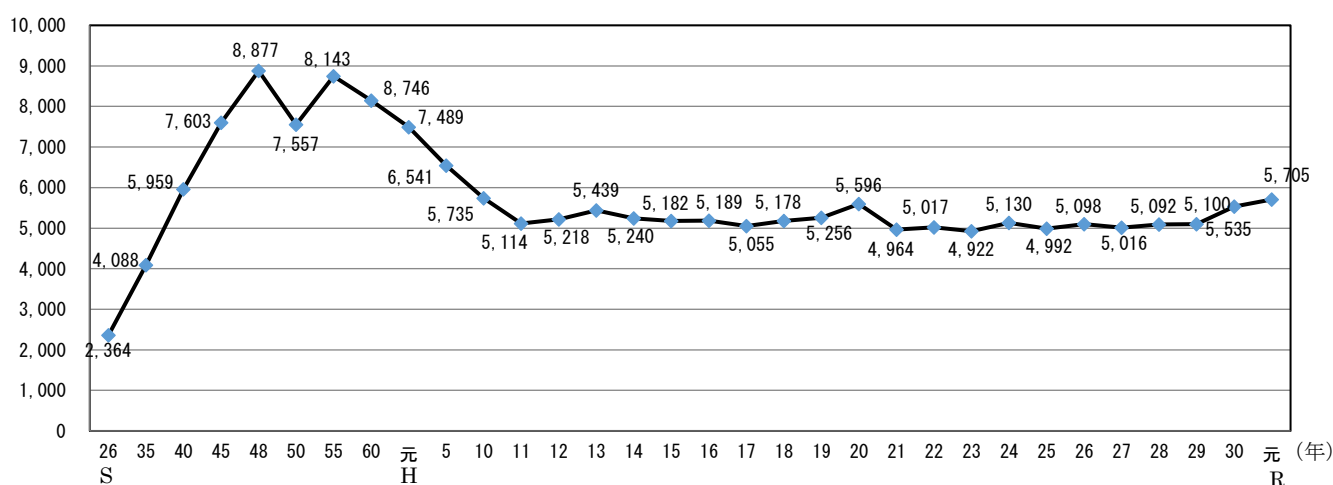
死亡者数は、厚生労働省安全課調べ。

2. 千葉県内

労働災害による休業4日以上之死傷者数は、昭和48年の8,877人をピークとしてその後減少を続け、平成11年以降は長期的に5,000人前後で横ばい状態が続き、平成23年は労働安全衛生法施行（昭和47年）以降最少となりましたが、平成28年に増加に転じ、令和元年は5,705人となり、前年比170人（3.1%）の増加となりました。

死亡者数は、長期的に見ると昭和40年代の200人前後から、昭和50年代には100人を割り込むこととなり、その後も減少傾向が続き、この5、6年は増減を繰り返していましたが、令和元年は36人となり前年比8人の増加となりました。

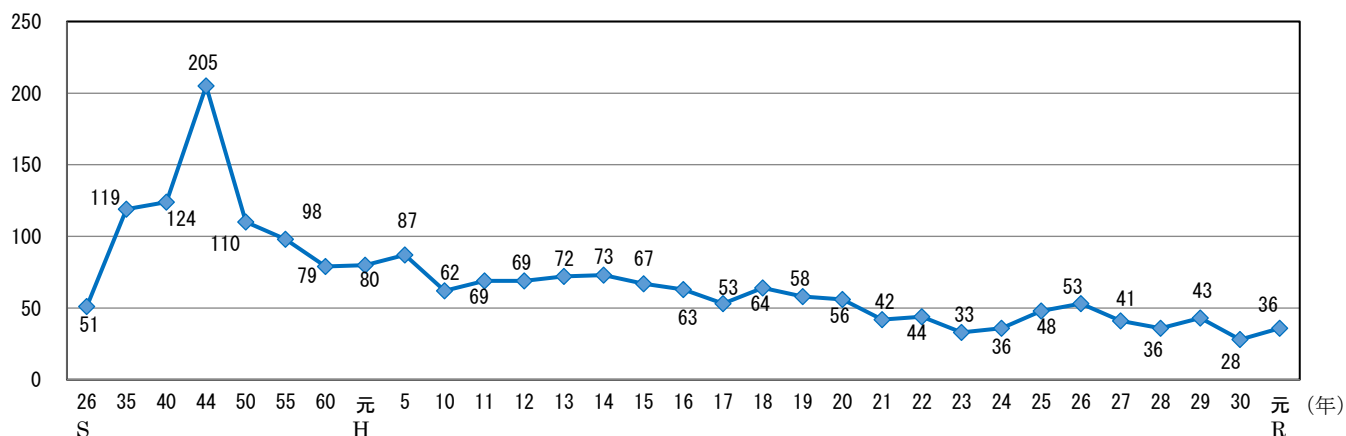
千葉県における死傷者数の推移（全産業）



（注）昭和29年～47年は休業8日以上、昭和48年以降は休業4日以上。

平成20年までは労災給付データ、平成21年以降は労働者死傷病報告による。

千葉県における死亡者数の推移（全産業）

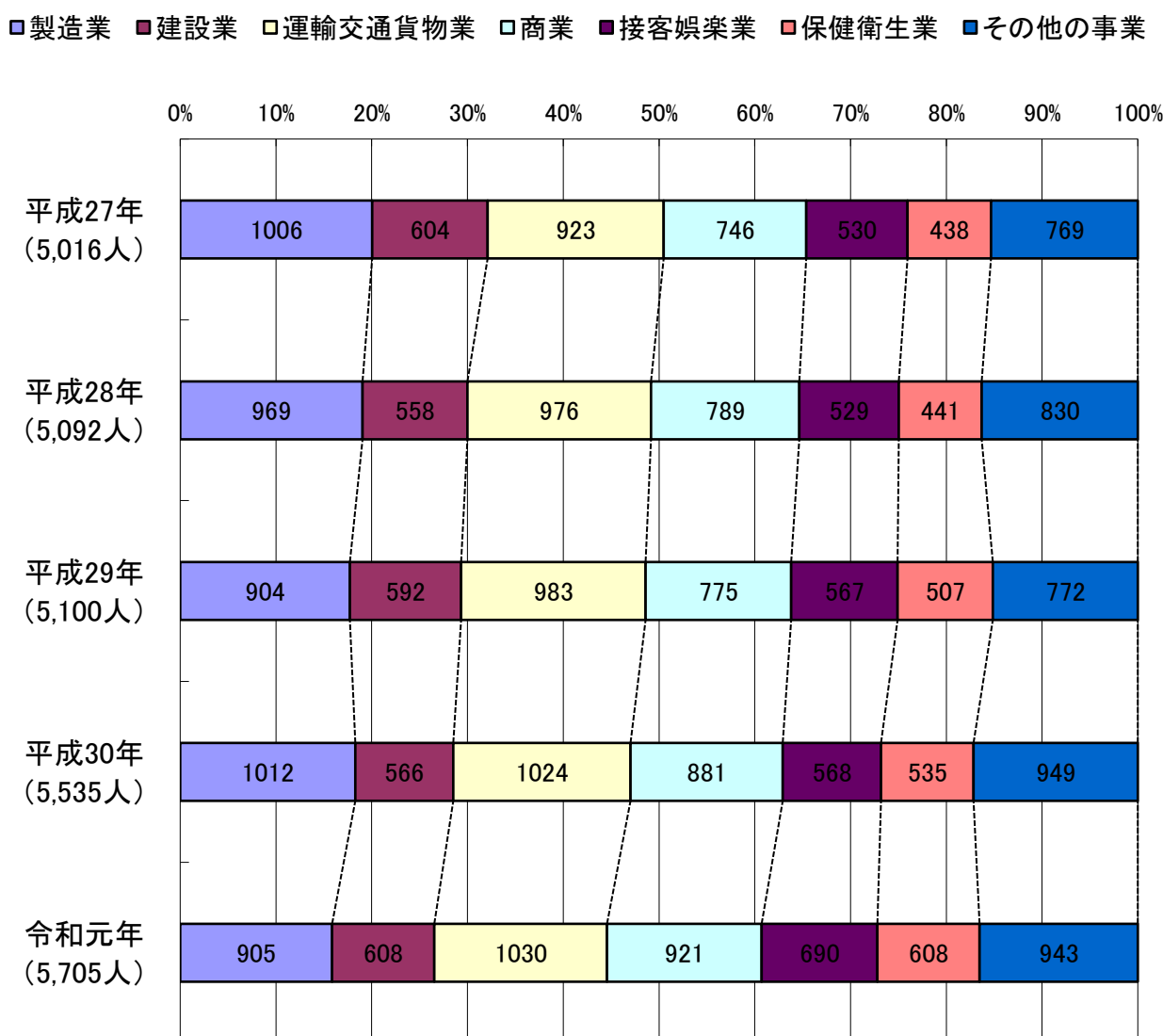


3 減少傾向がみられない死傷者数、第三次産業は増加傾向

令和元年から過去5年間の休業4日以上死傷者数は、年間5,000人を超える状況が続き、令和元年は過去5年間の最多の5,705人になりました。

業種別では、製造業・建設業は増減を繰り返し、運輸交通貨物業・保健衛生業は4年連続、接客娯楽業は3年連続、商業は2年連続でそれぞれ増加となりました。

業種別・年別死傷者数



(注) 運輸交通貨物業とは、運輸交通業と陸上貨物取扱業をいいます。
死傷者数は、労働者死傷病報告及び厚生労働省安全課調べ。

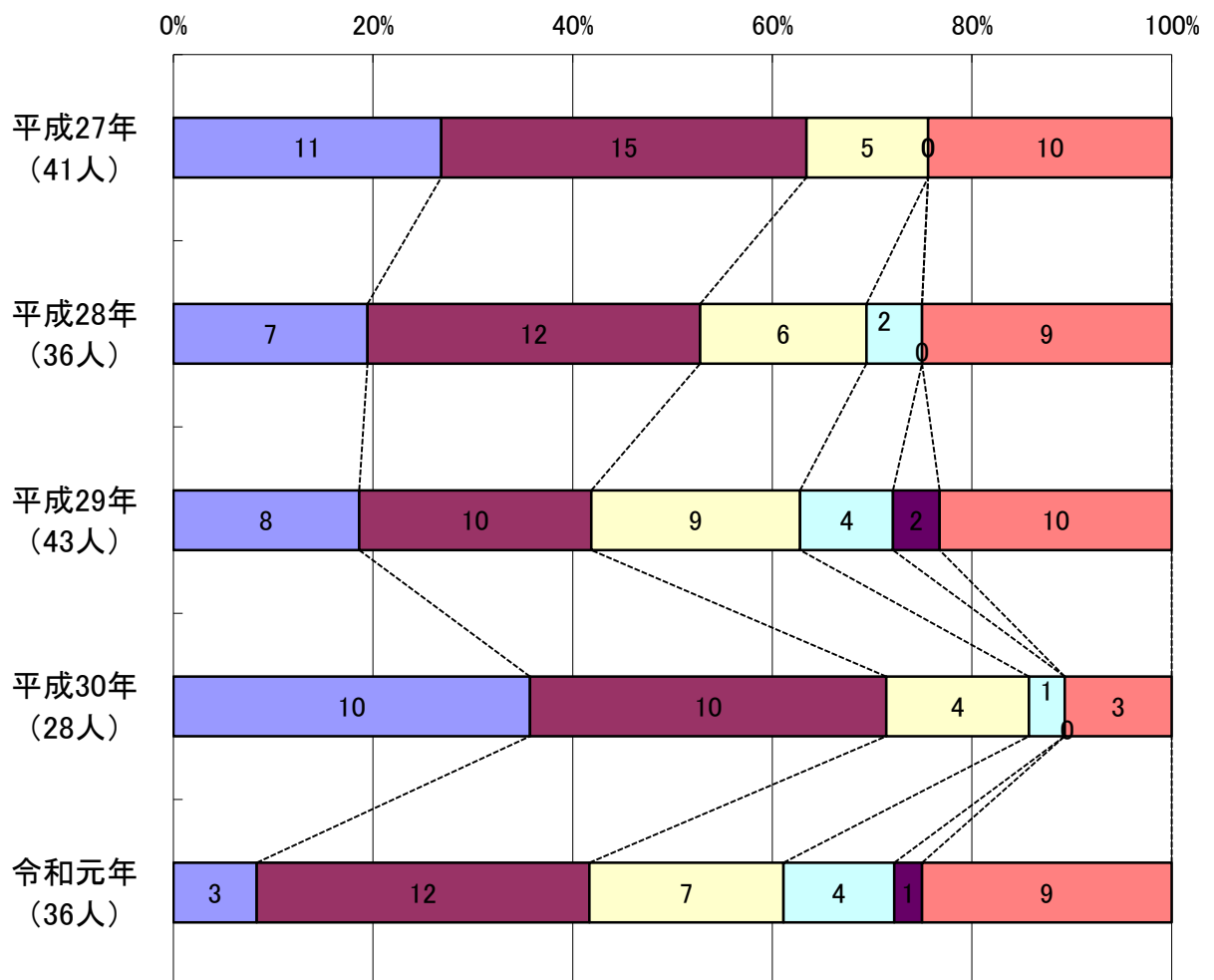
4 死亡災害の多い建設業、製造業、運輸交通貨物業

令和元年の死亡者数は 36 人となりました。平成 30 年と比べ、大幅に増加しました。

業種別に見ると製造業 3 人、建設業 12 人、運輸交通貨物業 7 人、商業 4 人などとなっており、建設業と運輸交通貨物業の 2 業種で全産業の 52.8%を占めています。

業種別・年別死亡者数

■製造業 ■建設業 □運輸交通貨物業 □商業 ■接客娯楽業 ■その他の事業



(注) 運輸交通貨物業とは、運輸交通業と陸上貨物取扱業をいいます。

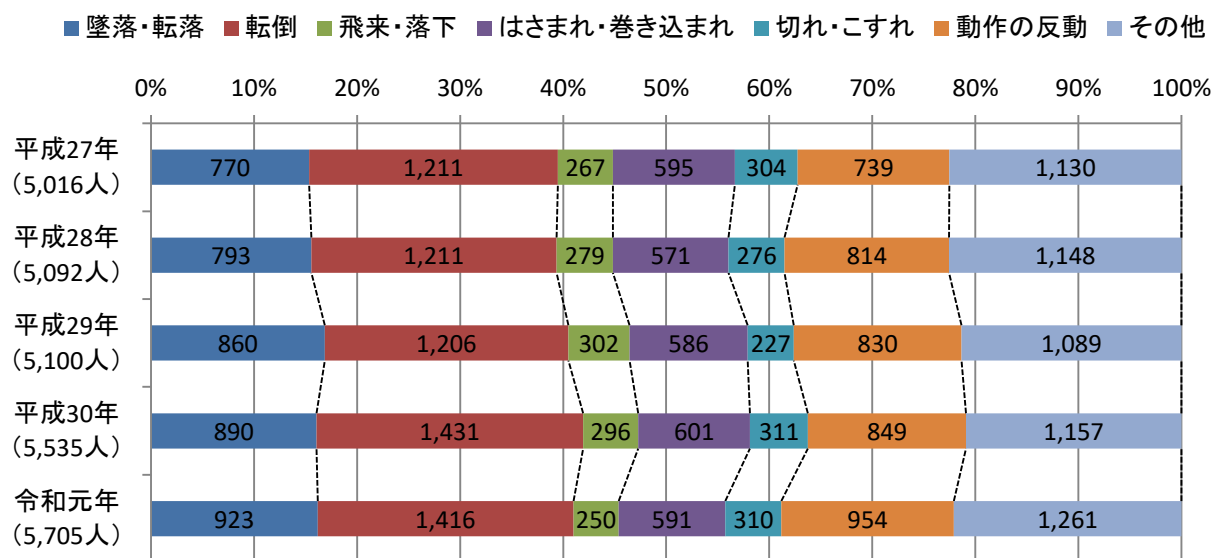
5 繰り返される在来型労働災害

1. 死傷災害

令和元年における千葉県内の死傷者数を事故の型別でみると、「転倒」が最も多く、「動作の反動」、「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」の順となっています。これらで全体の68.1%を占めています。

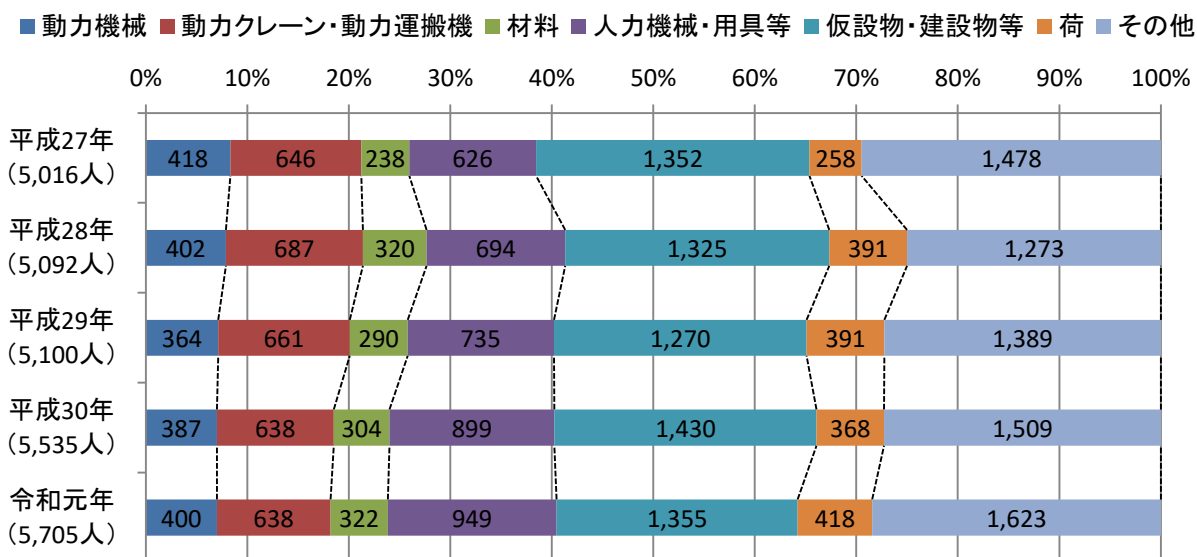
起因物別では、「仮設物・建築物等」、「人力機械・用具等」による災害が全体の40.4%と大きな割合を占めています。

事故の型別死傷災害発生状況



※ 事故の型別分類は17, 18 ページ参照
発生状況は、労働者死傷病報告及び厚生労働省安全課調べ。

起因物別死傷災害発生状況



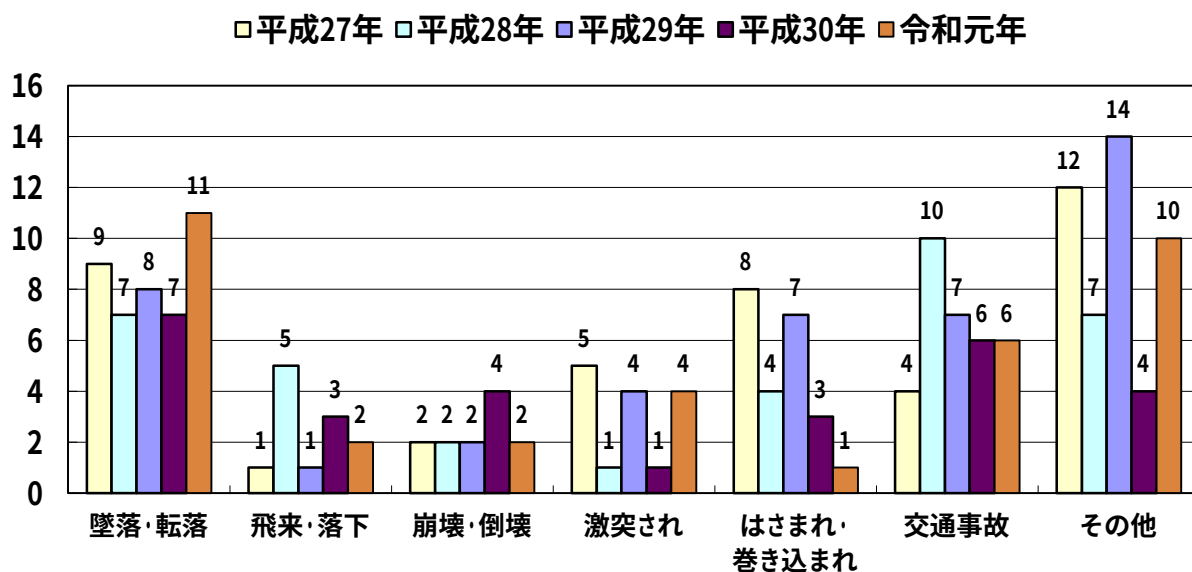
※ 起因物分類は19 ページ参照
発生状況は、労働者死傷病報告及び厚生労働省安全課調べ。

2. 死亡災害

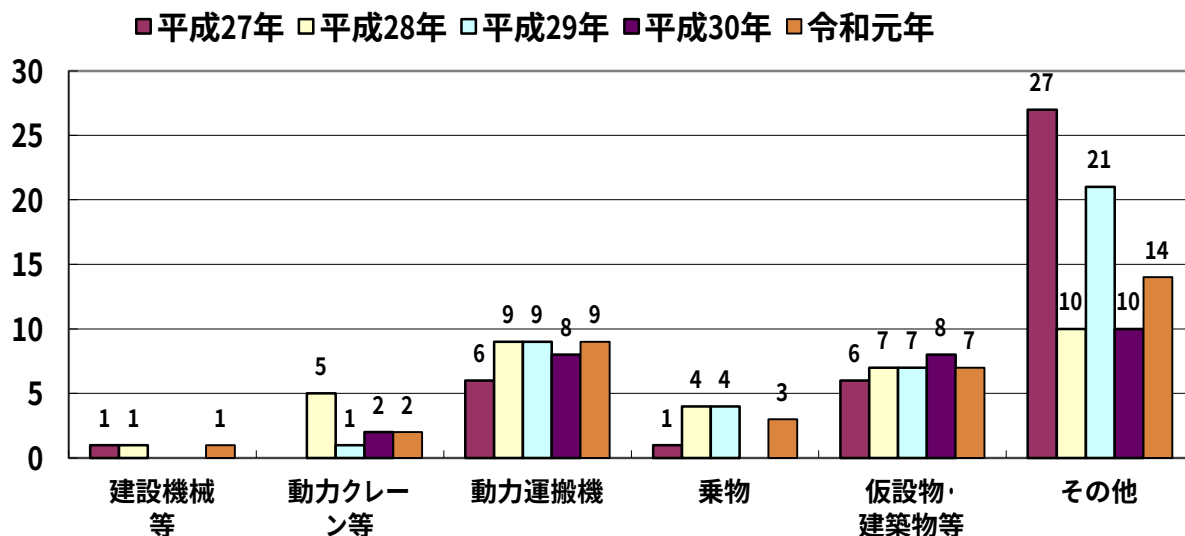
令和元年の死亡災害を事故の型別で見ると、「墜落・転落」が最も多く 11 人(全体の 30.6%)、「交通事故」がこれに次ぐ 6 人(16.7%)となっており、令和元年から過去 5 年間で見ると前者が 42 人(22.8%)、後者が 33 人(17.9%)となっています。

令和元年の死亡災害を起因物別で見ると、トラック等の「動力運搬機」が最も多く 9 人(全体の 25.0%)、「仮設物・建築物等」が 7 人(19.4%)となっており、令和元年から過去 5 年間で見ると前者が 41 人(22.3%)、後者が 35 人(19.0%)となっています。

事故の型別・年別死亡災害発生状況



起因物別・年別死亡災害発生状況

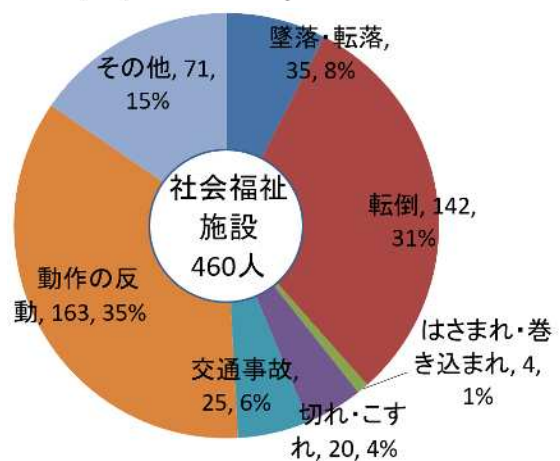
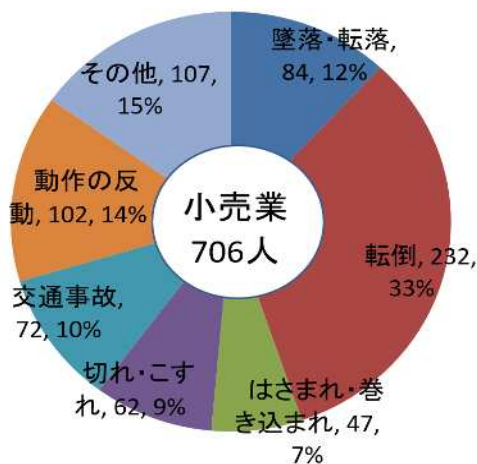
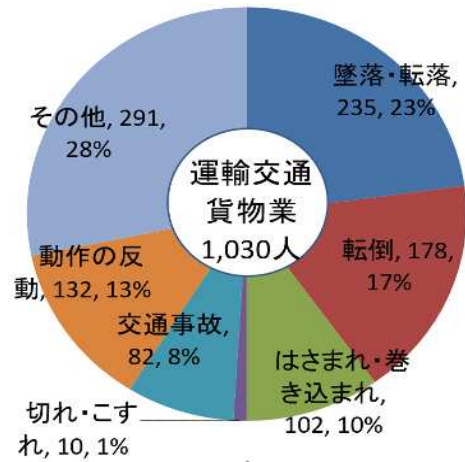
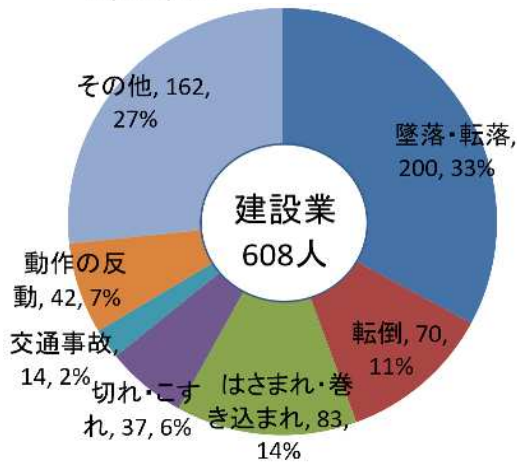
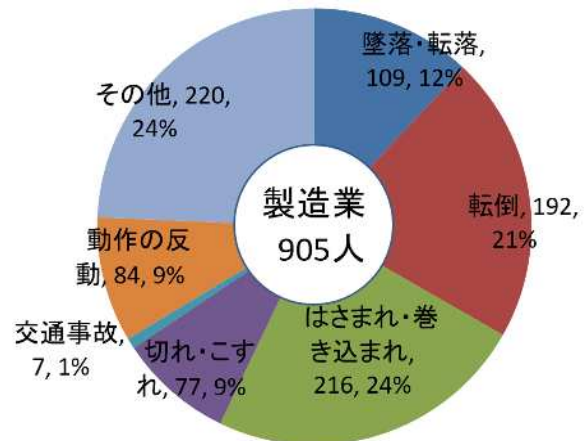
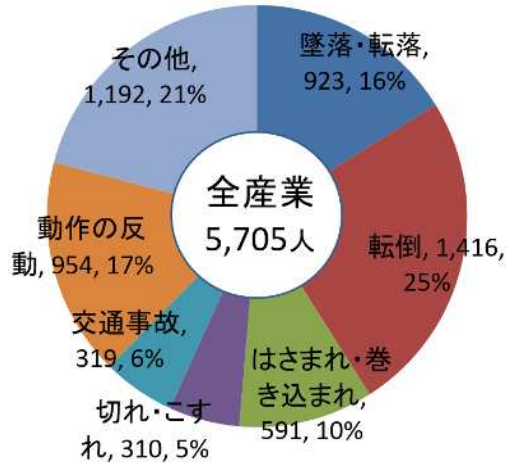


6 業種によって異なる災害発生のパターン

業種が異なれば作業に伴う危険性も異なり、発生する災害はそれぞれの業種に特有の傾向を示しています。

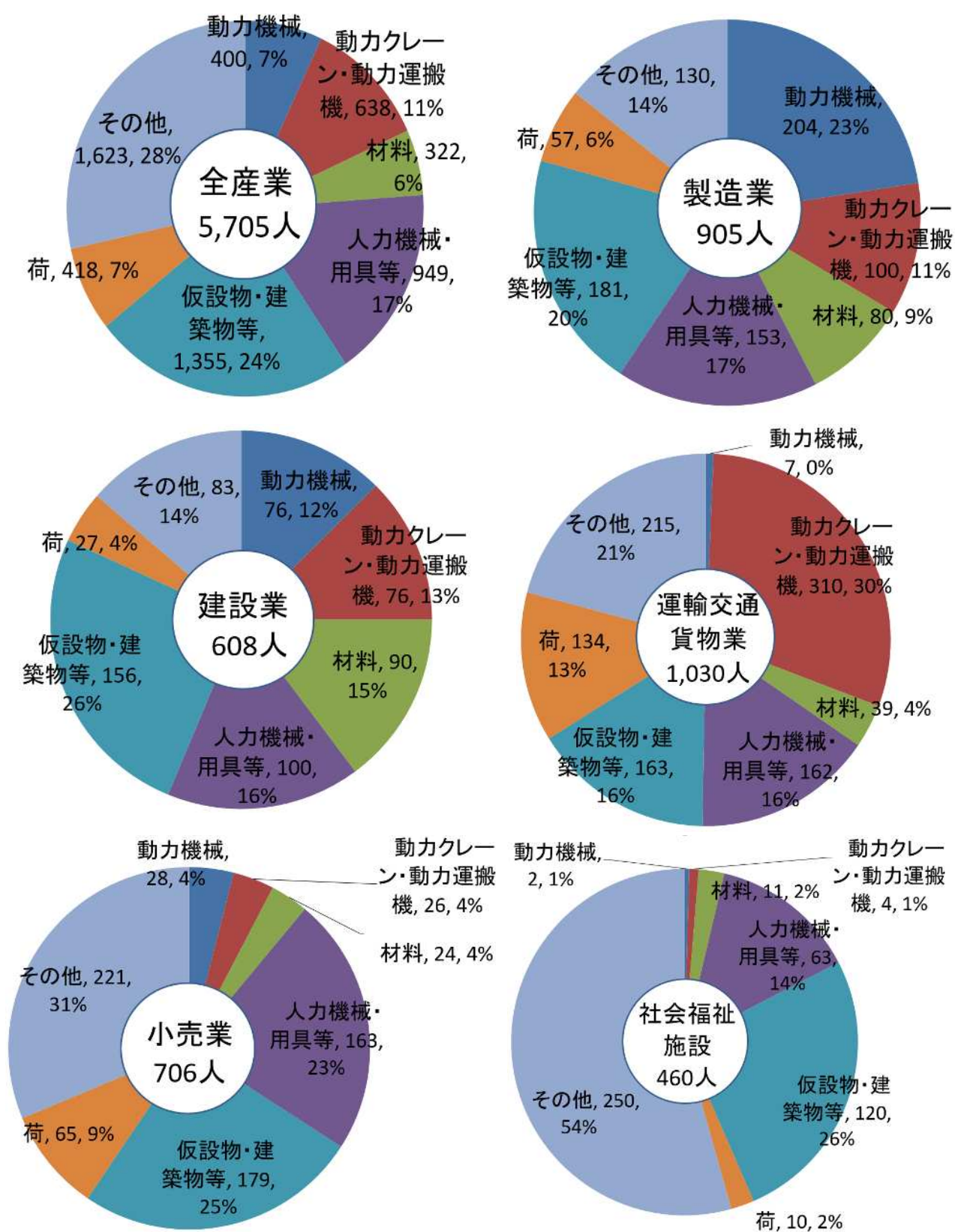
製造業では、食品加工用機械や金属加工用機械等を使用して作業中に機械にはさまれる災害、建設業では建築物等からの墜落・転落災害、運輸交通貨物業では荷台等からの墜落・転落災害、小売業では作業面や通路での転倒災害、社会福祉施設では移動介助中等の腰痛等（事故の型：動作の反動・無理な動作）、入浴介助中等の転倒災害が多く占めています。

1 事故の型別



(注) 運輸交通貨物業は、運輸交通業と陸上貨物取扱業をいいます。

2 起因物別

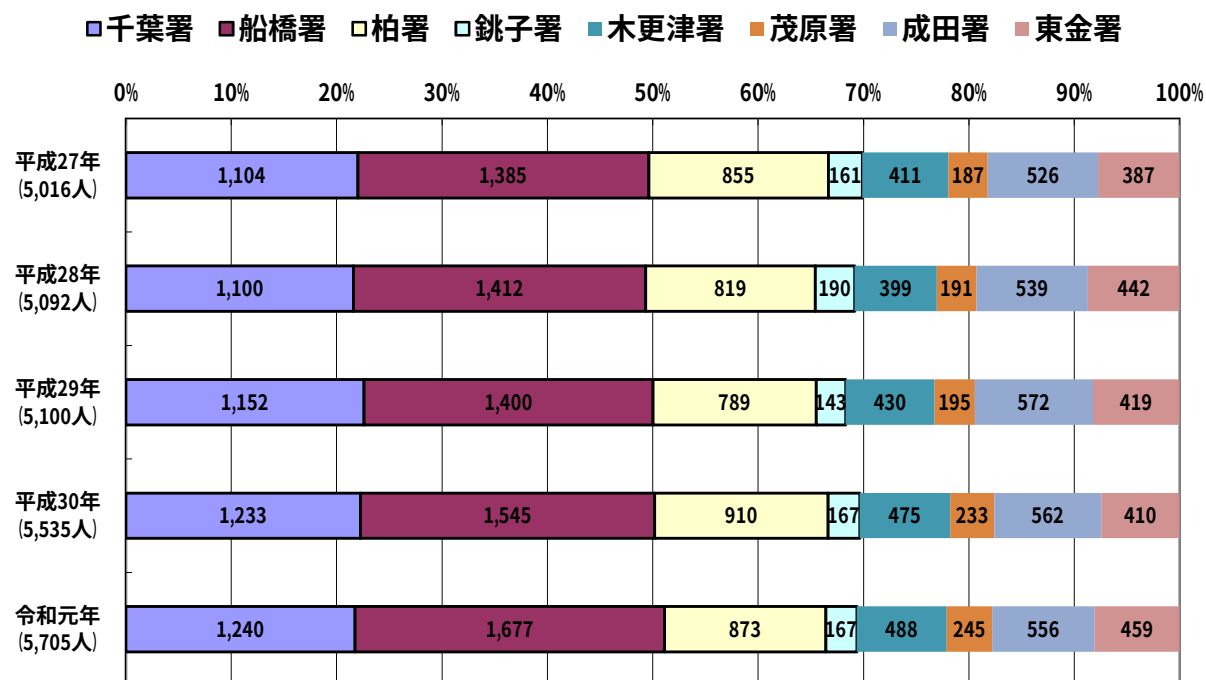


(注) 運輸交通貨物業は、運輸交通業と陸上貨物取扱業をいいます。

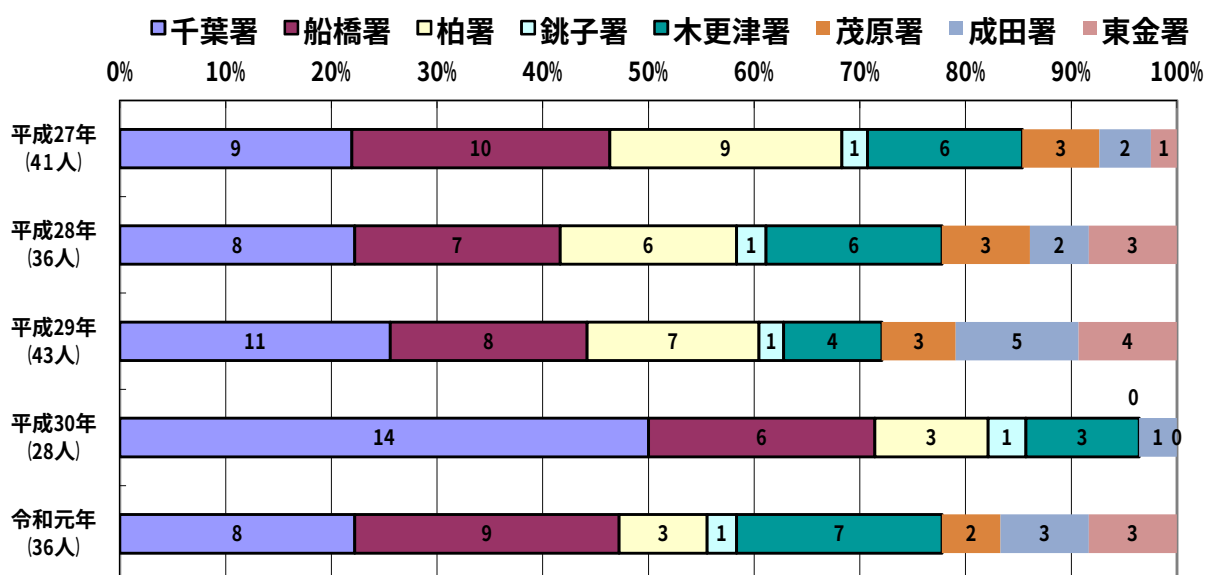
7 監督署別の労働災害発生状況

休業災害においては、千葉署、船橋署、柏署の千葉県北西部 3 署で全体の約 66.4%を占めています。

1. 死傷災害

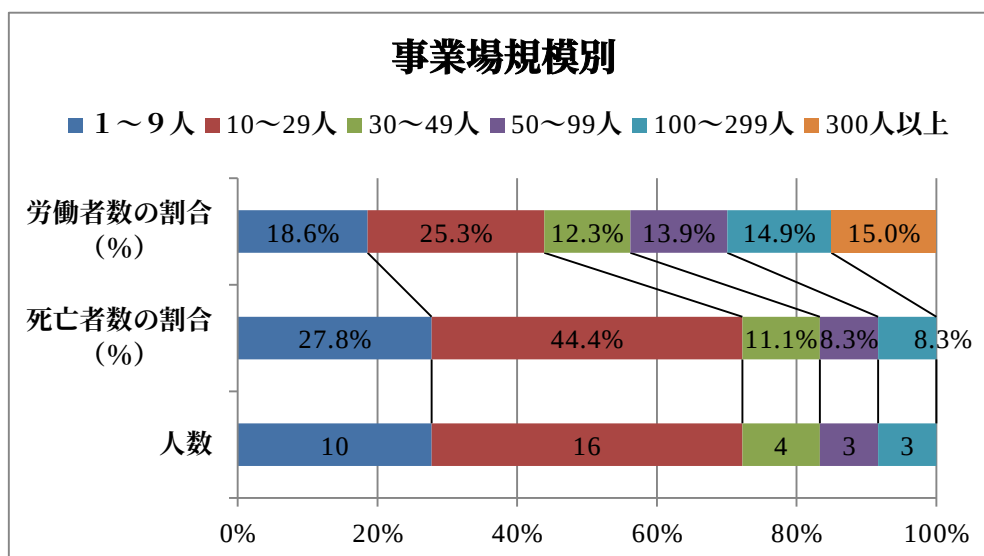
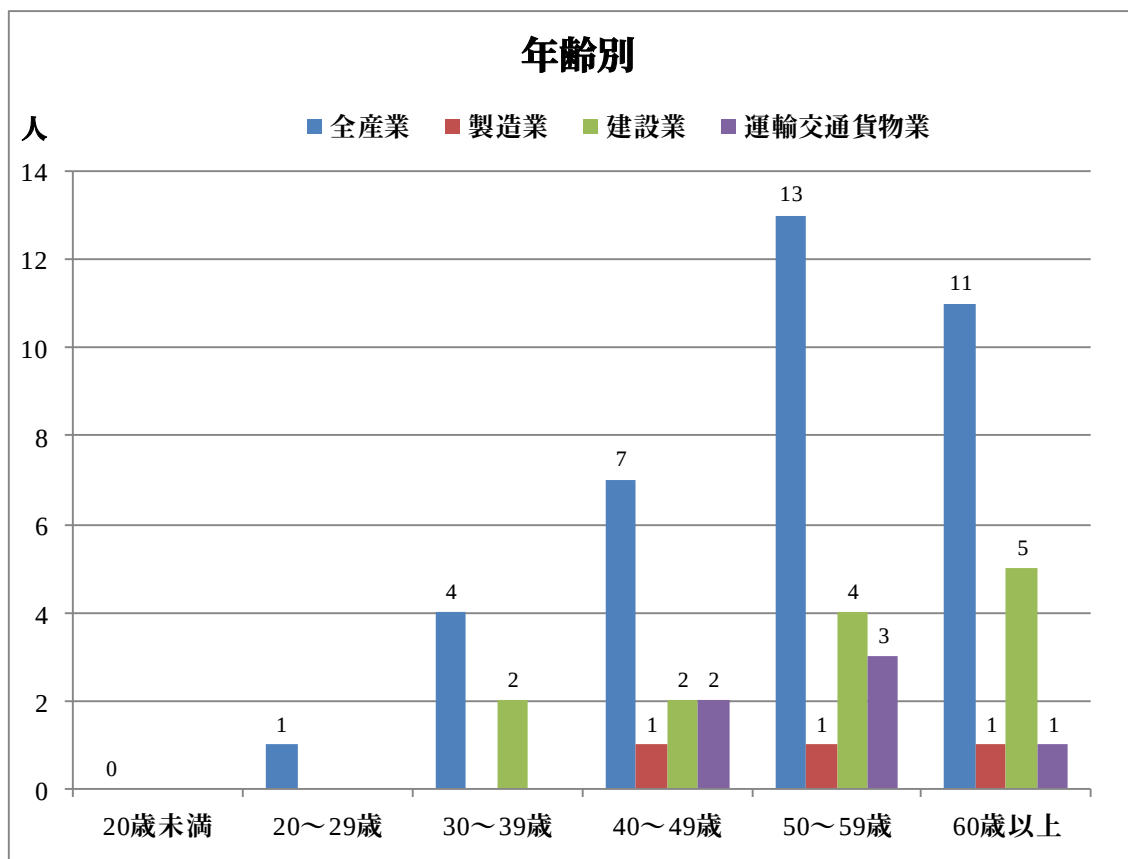


2. 死亡災害



8 高齢者・中小企業に多い死亡災害

令和元年は、全産業で、50 歳以上の死亡者数が 66.7%を占めています。事業場規模別では労働者 30 人未満の中小企業で 72.2%を占めています。小規模事業場や高年齢労働者に重篤な災害が比較的多く発生しています。

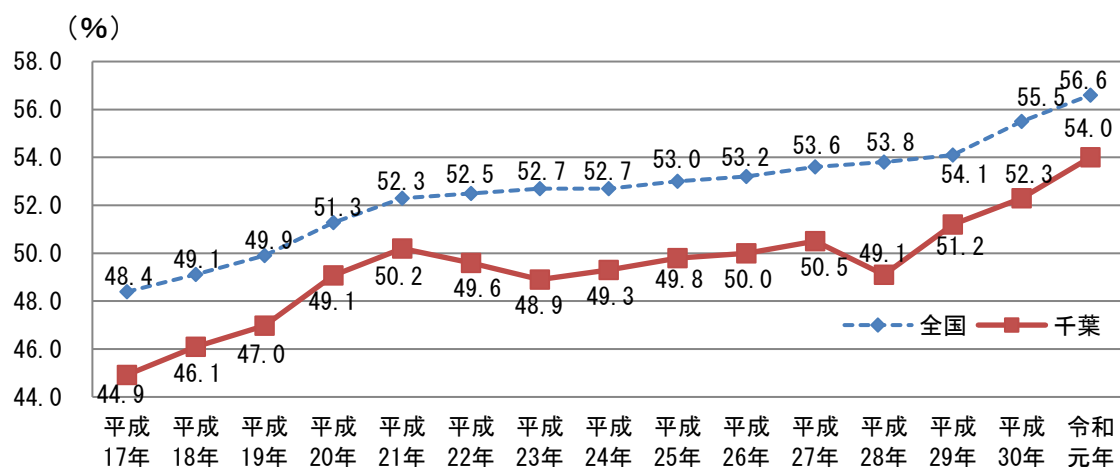


(注) 労働者数の割合は経済センサス-基礎調査（平成 26 年）に基づき算出

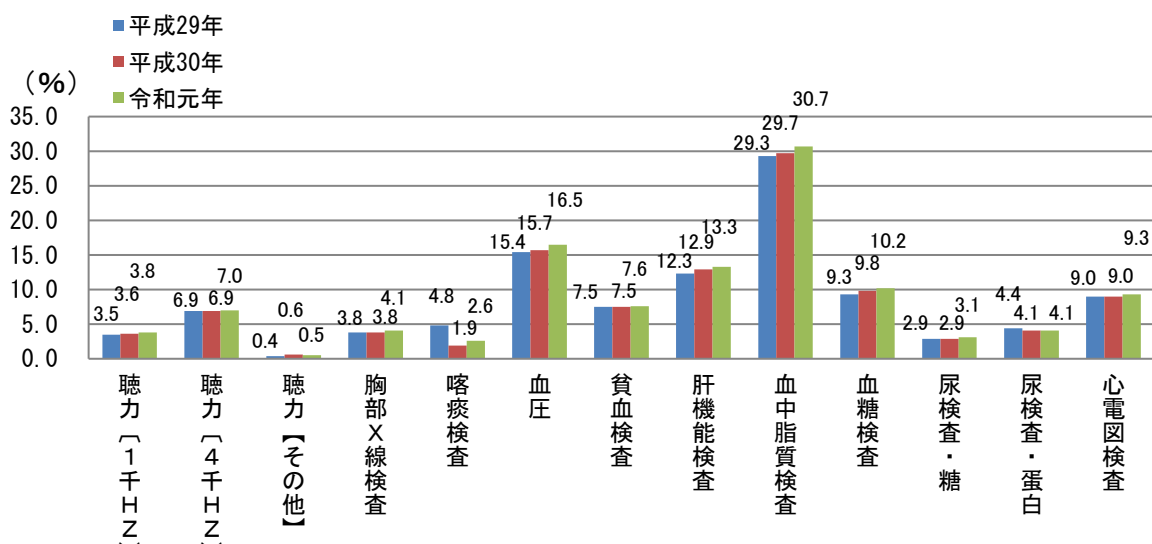
9 依然として増加傾向の有所見率

1. 定期健康診断結果有所見率の推移

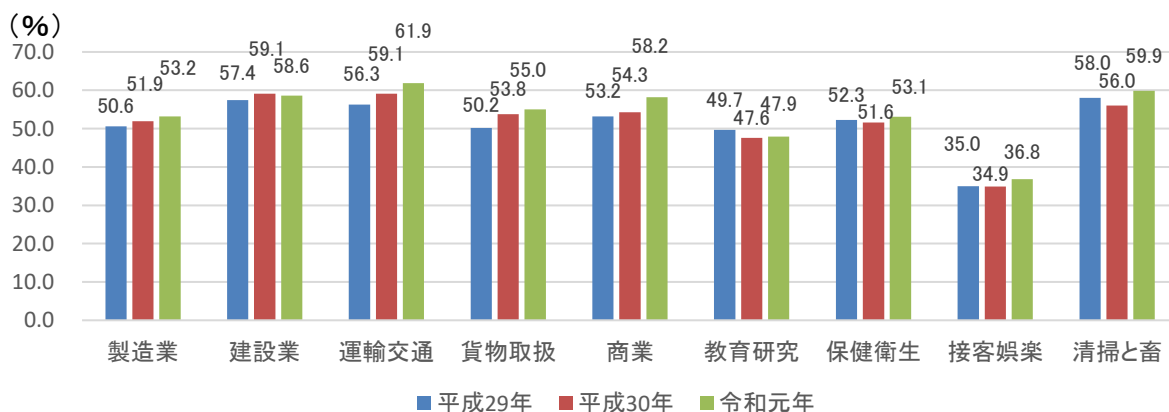
有所見率は増加傾向にあり、減少に転じさせるための取組が求められます。



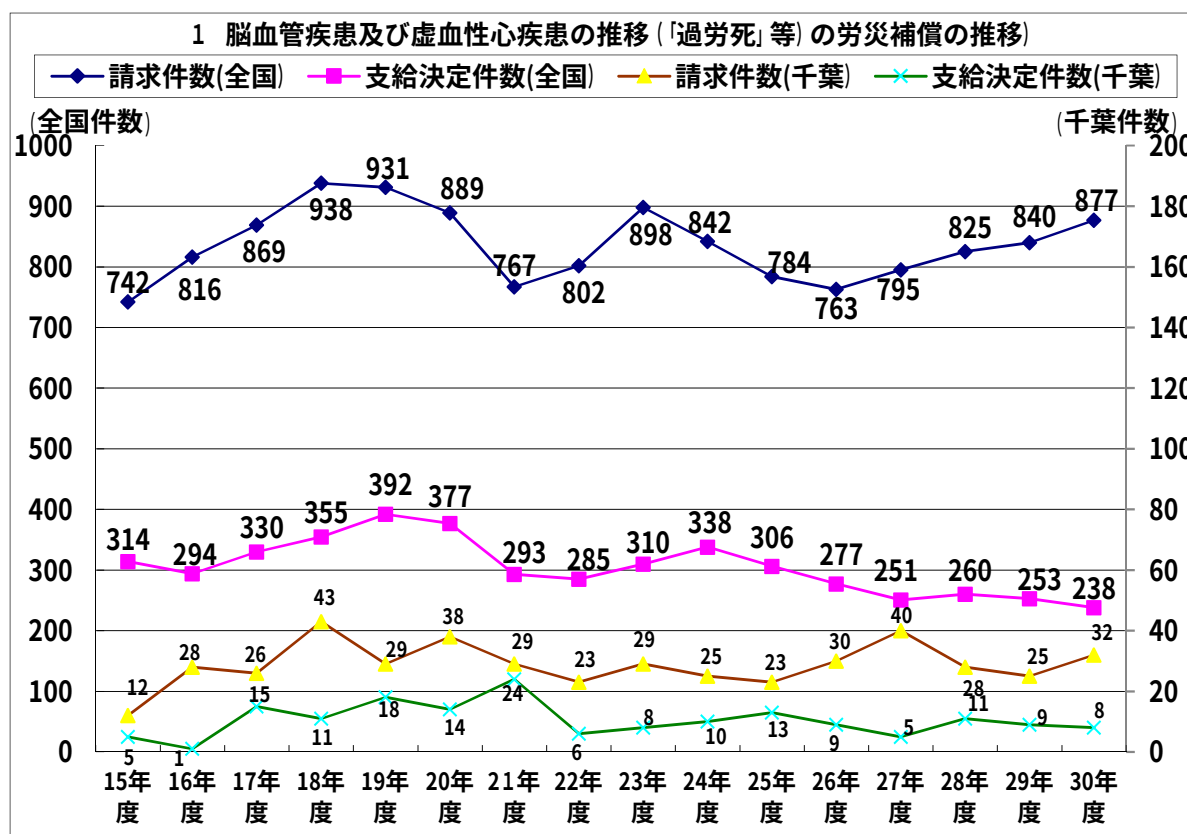
2. 千葉県における項目別有所見率



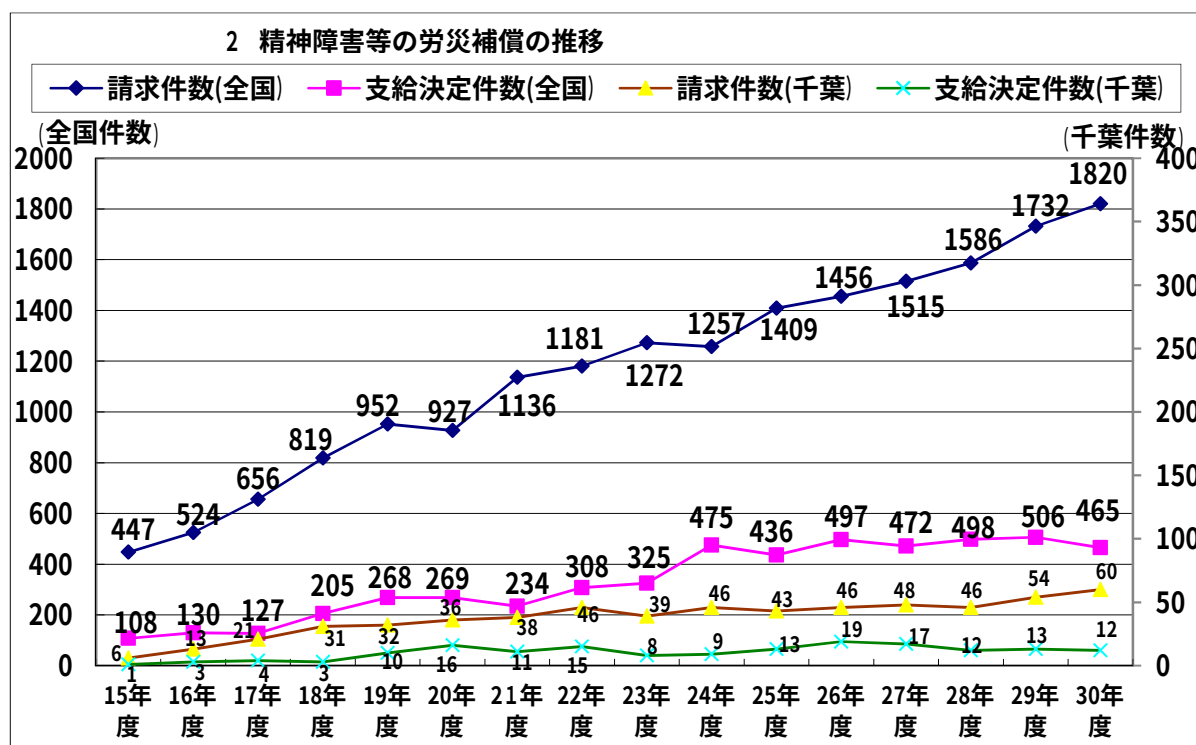
3. 千葉県における業種別有所見率



10 増加傾向にある過労死・精神障害等の労災補償請求件数



注 支給決定件数は当該年度に請求されたものに限るものではない。



注 支給決定件数は当該年度に請求されたものに限るものではない。

11 令和元年の死亡災害

1. 製造業

番号	災害発生月	業 種	事故の型	発 生 状 況
1	5月	セメント・同製品製造業	崩壊、倒壊	強風の屋外において出荷する製品の補修作業を行っていたところ、被災者の背後に置かれていた雨天作業用のテントが倒れ、製品とテントとの間に挟まれた。
2	8月	石油製品・石炭製品製造業	爆発	作業員が攪拌槽にシリコン油を送給するため、シリコン油の入ったドラム缶の蓋を開けたところ、内容物が噴き出し、火災が発生した。通報を受けた工場長が初期消火を行っていたところ、ドラム缶の周囲で爆発が起き、工場長が被災した。
3	8月	ガラス・同製品製造業	高温・低温の物との接触	工場内において網入りガラスの四方に出ている網をサンダーで飛ばす作業の完了後、次の作業のため、移動台車に載ったガラスを取り出そうとした際、急に気分が悪くなり、熱中症により倒れた。その後、入院加療中の10月に死亡した。

2. 建設業（土木工事関係）

番号	災害発生月	業 種	事故の型	発 生 状 況
1	12月	上下水道工事業	激突され	国道工事現場にトラックが突っ込み、警備員2名（うち1名が死亡）がはねられ、さらに停止していた工事車両に追突し、付近にいた作業員4名（うち1名死亡）と警備員1名も巻き込まれた。

3. 建設業（建築工事関係）

番号	災害発生月	業 種	事故の型	発 生 状 況
1	3月	木造家屋建築工事業	墜落・転落	2階建て個人住宅の建替え工事現場において、1階屋根部の上に設置された足場板から屋根を経由して外部足場上に移り、さらに建物2階の床面に乗り移ろうとしたところ、開口部から約3.8m下の基礎部に墜落した。
2	7月	その他の建築工事業	飛来・落下	S造建屋の解体工事現場において、基礎コンクリート上に集積されたコンクリートガラを移動させようとドラグショベルを旋回させた際、廃鉄筋とバケットとが接触、緊張した鉄筋（直径2cm、長さ約2m）が飛んで、約22m離れた場所で散水の準備作業をしていた被災者の胸に激突した。
3	7月	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋工事業	飛来・落下	砂利の入ったフレコンバッグ（重さ約1t）を移動式クレーンで吊り上げて水平移動していたところ、フレコンバッグの吊りベルトが切断してフレコンバッグが落下、下方にいた作業員が下敷きになった。
4	8月	その他の建築工事業	高温・低温の物との接触	ビニールハウス組立工事で、気温31℃台の環境下で脚立を利用して陸梁の取付け作業を行っていたところ、脚立に座り込み、その後ふらついた状態となったため病院に搬送され、熱中症とみられる症状により17日後に死亡した。
5	8月	その他の建設工事業	高温・低温の物との接触	熱中症嚴重警戒下で鉄骨の荷下ろし・仮締め作業に従事していた被災者が、午前11時頃に嘔吐症状を示した。被災者は11時30分から休憩に入り、同僚が運転する車で飲食店に移動後、1人で車内に待機していた。正午頃、被災者が車内にいないことに気づいた同僚が付近を捜したところ、意識を失って倒れていた被災者を発見。被災者は医療機関に搬送されたが、翌日死亡した。
6	10月	建築設備工事業	墜落・転落	台風で損傷した工場のスレート屋根の修繕作業において、屋根上の作業員がスレート屋根を踏み抜いて、約7m下の地上に墜落した。
7	12月	その他の建築工事業	墜落・転落	2階建て木造住宅の塗装工事で使用した足場を解体作業中、被災者が取り外した火打ち材を持って屋根上を移動していたところ、高さ5.95mの軒先から墜落した。

4. 建設業（その他の建設業）

番号	災害発生月	業 種	事故の型	発 生 状 況
1	4月	機械器具設置工事業	墜落・転落	高さ約24mの作業構台上で作業者2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ留めした単管に安全帯のフックを掛け、玉掛用のシャックルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、架台の仮溶接部分が外れて跳ね上がった。作業者2名も安全帯のフックが掛かっていたため架台とともに、移動式クレーンの主ジブに激突し、その衝撃で単管が外れ、2名とも地上に墜落し、死亡した。
2	4月	機械器具設置工事業	墜落・転落	同上
3	8月	その他の建設業	高温・低温の物との接触	ボーリング作業に1日従事し、終了後の片づけ作業中、熱中症を発症し搬送先の医療機関で9日後に死亡した。
4	12月	電気通信工事業	墜落・転落	駅構内において横取り装置の電源を新設するにあたり、線路を横断するビームに防護管を設置するため、高さ約6mのビーム上で作業していた際に道床に墜落した。

5. 運輸交通業・貨物取扱業

番号	災害発生月	業 種	事故の型	発 生 状 況
1	1月	一般貨物自動車運送業	その他	トラック運転手が搬送先に積み荷を降ろし、次の搬送先に向かう途中、過重労働によりくも膜下出血を発症し、倉庫壁面に接触しながら停車中の乗用車に追突し、搬送先の病院で死亡した。
2	1月	一般貨物自動車運送事業	交通事故（道路）	トレーラーで工事現場に鉄板を搬送中、国道でトレーラーが横転し、運転手が死亡した。
3	4月	一般貨物自動車運送事業	墜落・転落	2階階段の踊り場から1階まで階段の清掃をしようとして後ろ向きで降りたところ、足を踏み外し1階の階段まで転落して頭部を強打負傷し、9日後に死亡した。
4	5月	一般貨物自動車運送業	その他	長期にわたり不規則な時間外労働を継続していたところ、自宅で心肺停止となった。
5	9月	一般貨物自動車運送事業	交通事故（道路）	線路沿いの市道を走行してきた大型トラックが切り返しを繰り返して、踏切に進入して立ち往生した際、列車と衝突してトラックが大破炎上、列車が脱線した。衝撃でトラック運転手が車外に放り出され死亡、列車の運転士、車掌及び乗客30名以上が負傷した。
6	9月	一般貨物自動車運送事業	交通事故（道路）	国道をトラックで走行中、渋滞中の最後尾のトレーラーに追突し、その勢いで3台の玉突き事故となり、トラックを運転していた被災者が胸部を圧迫され死亡した。
7	12月	バス業	交通事故（道路）	高速路線バスを運転して首都高のトンネル内を走行中、他の車両火災による煙で視界不良となり、前方の車に衝突した。

6. その他の業種

番号	災害発生月	業 種	事故の型	発 生 状 況
1	2月	その他の事業	墜落・転落	ペット霊園の敷地内の法面で立木の枝の伐採をしていたところ、約8m墜落した。
2	3月	情報処理サービス業	その他	被災者は午前9時20分頃に出社。同日午後9時15分頃、部下と約束した打合せ場所に現れず、連絡もつかなかったため、部下が捜したところ、会議室で倒れている被災者を発見した。過重労働による健康障害と判断される。
3	4月	その他の小売業	墜落・転落	古紙の圧迫梱包機械（ベラー機）で作業中、ベラー機の投入口にベルトコンベヤーから送られた段ボールが詰まったため、除去しようとした際に投入口に転落し、プレス機付近まで落下、プレス機が作動して腰部分で上半身と下半身が切断されたものと推定される。
4	4月	畜産業	激突され	牛舎内において一人で柵の補修作業をしていた被災者が、牛舎内に倒れて牡牛に頭で突かれているところを発見された。被災者は7日後に出血性ショックにより死亡した。
5	4月	その他の廃棄物処理業	墜落・転落	ごみ処理場のピット（深さ11m）内のごみの上に墜落（墜落高さ約7m）、パッカー車から投棄されたごみに埋もれ、窒息した。
6	5月	産業廃棄物処理業	転倒	フォークリフトを運転して事業場内の清掃・整理作業をしていた被災者が横転したフォークリフトと地面との間に挟まれた状態で倒れているところを発見された。
7	6月	新聞販売業	交通事故（道路）	バイクで朝刊の配達中、交差点で乗用車と衝突し、バイクごと転倒して頭部を打撲、5日後に死亡した。
8	6月	倉庫業	挟まれ・巻き込まれ	倉庫内のラックエリアにおいて、固定されたラックの在庫確認をしていたところ、別の作業者が電動ラックを被災者側に動かしたため、固定式ラックと電動ラックとの間に挟まれた。
9	7月	新聞配達業	交通事故（道路）	原付バイクで新聞配達中、カーブにさしかかったあたりで縁石に接触して転倒した。
10	8月	警備業	高温・低温の物との接触	建設現場で工事車両の誘導を行っていた作業員の体調の異変を感じた同僚が休憩を指示し、被災者は休憩所に向かったが、25分後途中で倒れているところを発見された。被災者は搬送された病院で同日死亡が確認された。
11	10月	ゴルフ場	墜落・転落	ゴルフ場の土砂崩壊した敷地内道路の復旧作業中、坂道の途中にタンク車を停車させ道路上の土砂を水洗していたところ、タンク車が逸走し、タンク車のホース先端で作業していた被災者がタンク車とともに道路脇の崖下に墜落した。
12	10月	砂利採取業	崩壊、倒壊	山砂採取場において、斜面高さ60m上部で掘削して下方に落とすことにより堆積していた山砂をドラグ・ショベルでダンプトラックに積み込んでいたところ、斜面上に堆積した山砂が崩壊してドラグ・ショベルとダンプトラックが埋まり、ドラグ・ショベルの運転手が死亡した。
13	12月	その他の事業（その他）	激突され	台風で傷んだ立木の伐木等の作業中、チェーンソーにより伐木しようとした木（長さ約11m）が意図した方向とは反対の方向に倒れたため、玉切り作業をしていた被災者が直撃され、下敷きになった。
14	12月	警備業	激突され	国道工事現場にトラックが突っ込み、警備員2名がはねられ（うち1名が死亡）、さらに停止していた工事車両に追突し、付近にいた作業員4名（うち1名が死亡）と警備員1名も巻き込まれた。

事故の型分類コード

分類 番号	分類項目	説 明
1	墜落・転落	人が樹木、建築物、足場、機械、乗物、はしご、階段、斜面等から落ちることをいう。 乗っていた場所が崩れ、動揺して墜落した場合、砂ビン等による蟻地獄の場合を含む。 車両系機械などとともに転落した場合を含む。 交通事故は除く。 感電して墜落した場合には感電に分類する。
2	転倒	人がほぼ同一平面上でころぶ場合をいい、つまづき又はすべりにより倒れた場合等をいう。 車両系機械などとともに転倒した場合を含む。 交通事故は除く。 感電して倒れた場合には感電に分類する。
3	激突	墜落・転落及び転倒を除き、人が主体となって静止物又は動いている物に当たった場合をいい、つり荷、機械の部分等に人からぶつかった場合、飛び降りた場合等をいう。 車両系機械などとともに激突した場合を含む。 交通事故は除く。
4	飛来・落下	飛んでくるもの、落ちてくるもの等が主体となって人に当たった場合をいう。 研削といしの破裂、切断片、切断粉等の飛来、その他自分が持っていた物を足の上に落とした場合を含む。 容器等の破裂によるものは破裂に分類する。
5	崩壊・倒壊	堆積した物（はい等も含む）、足場、建築物等がくずれ落ち又は倒壊して人に当たった場合をいう。 立てかけてあった物が倒れた場合、落盤、なだれ、地すべり等の場合を含む。
6	激突され	飛来、落下、崩壊、倒壊を除き、物が主体となって人に当たった場合をいう。 つり荷、動いている機器の部分などが当たった場合を含む。 交通事故は除く。
7	はさまれ・巻きこまれ	物にはさまれる状態及び巻きこまれる状態でつぶされ、ねじられる等をいう。 プレス of 金型、鍛造機のハンマ等による挫滅創等はここに分類する。 ひかれる場合を含む。 交通事故は除く。
8	切れ・こすれ	こすられる場合、こすられる状態で切られた場合等をいう。 刃物による切れ、工具取扱中の物体による切れ、こすれ等を含む。
9	踏み抜き	くぎ、金属片等を踏み抜いた場合をいう。 床、スレート等を踏み抜いたものを含む。 踏み抜いて墜落した場合は墜落に分類する。
10	おぼれ	水中に墜落しておぼれた場合を含む。

分類 番号	分類項目	説 明
11	高温・低温の 物との接触	高温又は低温の物との接触をいう。 高温又は低温の環境下にばく露された場合を含む。 (高温の場合) 火災、アーク、熔融状態の金属、湯、水蒸気等に接触した場合をいう。 炉前作業の熱中症等高温環境下にばく露された場合を含む。 (低温の場合) 冷蔵庫内等低温の環境下にばく露された場合を含む。
12	有害物等と の接触	放射線による被ばく、有害光線による障害、CO中毒、酸素欠乏症ならびに 高気圧、低気圧等有害環境下にばく露された場合を含む。
13	感電	帯電体に触れ、又は放電により人が衝撃を受けた場合をいう。 (起因物との関係) 金属性カバー、金属材料等を媒体として感電した場合の起因物は、これらが 接触した当該設備、機械装置に分類する。
※14	爆発	圧力の急激な発生又は開放の結果として、爆音をともなう膨張等が起こる場 合をいう。 破裂を除く。 水蒸気爆発を含む。 容器、装置等の内部で爆発した場合は、容器、装置等が破裂した場合であっ てもここに分類する。 (起因物との関係) 容器、装置等の内部で爆発した場合の起因物は、当該容器、装置等に分類す る。 容器、装置等から内容物が取り出された、又は漏えいした状態で当該物質が 爆発した場合の起因物は、当該容器、装置に分類せず、当該内容物に分類す る。
※15	破裂	容器又は装置が物理的な圧力によって破裂した場合をいう。 圧かいを含む。 研削といしの破裂等機械的な破裂は飛来・落下に分類する。 (起因物との関係) 起因物としてはボイラー、圧力容器、ボンベ、化学設備等がある。
※16	火災	(起因物との関係) 危険物の火災においては危険物を起因物とし、危険物以外の場合においては 火源となったものを起因物とする。
※17	交通事故 (道路)	交通事故のうち道路交通法適用の場合をいう。
※18	交通事故 (その他)	交通事故のうち船舶、航空機及び公共輸送用の列車、電車等による事故をい う。 公共輸送用の列車、電車を除き、事業場構内における交通事故は、それぞれ 該当項目に分類する。
19	動作の反動 無理な動作	上記に分類されない場合であって、重い荷物を持ち上げて腰をぎっくりさせ たというように身体の動き、不自然な姿勢、動作の反動などが起因してすじを ちがえる、くじく、ぎっくり腰及びこれに類似した状態になる場合をいう。 バランスを失って墜落、重い物を持ちすぎて転倒等の場合は、無理な動作等 が関係したものであっても、墜落、転倒等に分類する。
90	その他	上記のいずれにも分類されない傷の化膿、破傷風等をいう。
99	分類不能	分類する判断材料に欠け分類困難な場合をいう。

※印は特掲事故であって、事故の型を決める際は他よりも優先する。

起因物分類コード表

分類番号			分類番号	分類番号			分類番号	
大	中	小		大	中	小		
1 動力機械	11	111	原動機	3 その他の装置	31	311	ボイラー	
	12	121	動力伝導機構		312	312	圧力容器	
	13 木材加工用機械	131	丸のこ盤		319	319	その他の圧力容器	
		132	帯のこ盤		32	321	化学設備	
		133	かんな盤		33 溶接装置	331	ガス溶接装置	
		134	角のみ盤、木工ボール盤			332	アーク溶接装置	
		135	面とり盤、ルータ、木工フライス盤			339	その他の溶接装置	
		136	チェーンソー		34	341	炉 窯	
		139	その他の木工用機械		342	342	乾燥設備	
		14 建設機械等	141		整地・運搬、積込み用機械	349	349	その他の炉窯等
	142		掘削用機械		35	351	送配電線等	
	143		基礎工事用機械		352	352	電力設備	
	144		締固め用機械		359	359	その他の電気設備	
	145		解体用機械		36 人力機械工具等	361	361	人力クレーン
	146		高所作業車			362	362	人力運搬
	149		その他の建設用機械			363	363	人力機械
	15 金属加工用機械	151	旋盤		364	364	手工具	
		152	ボール盤、フライス盤		37	371	はしご等	
		153	研削盤、バフ盤		372	372	玉掛用具	
		154	プレス機械		379	379	その他の用具	
		155	鍛圧ハンマー		39	391	その他の装置、設備	
		156	シャー		4 仮設物、建築物、構築物等	41	411	足場
		159	その他の金属加工用機械			412	412	支保工
	16 一般動力機械	161	遠心機械			413	413	階段、棧橋
		162	混合機、粉碎機			414	414	開口部
		163	ロール機（印刷ロール機を除く）			415	415	屋根、はり、もや、けた、合掌
		164	射出成型機			416	416	作業床、歩み板
		165	食品加工用機械			417	417	通路
		166	印刷用機械			418	418	建築物、構築物
		167	産業用ロボット			419	419	その他の仮設物、建築物、構築物等
	17 車両系木材伐出機械等	169	その他の一般動力機械			51	511	爆発性の物等
		171	伐木等機械		512	512	引火性の物	
		172	走行集材機械		513	513	可燃性のガス	
		173	架線集材機械		514	514	有害物	
	2 物上げ装置、運搬機械	21 動力クレーン等	179		その他の車両系林業用機械	515	515	放射線
211			クレーン	519	519	その他の危険物、有害物等		
212			移動式クレーン	52 材料	521	521	金属材料	
213			デリック		522	522	木材、竹材	
214			エレベータ・リフト		523	523	石、砂、砂利	
215			揚貨装置		529	529	その他の材料	
216			ゴンドラ		6 荷	61	611	荷姿のもの
217			機械集材装置、運材索道	612		612	機械装置	
218			簡易架線集材装置	71		711	地山、岩石	
219		その他の動力クレーン等	712	712		立木等		
22 動力運搬機		221	トラック	7 環境等	713	713	水	
		222	フォークリフト		714	714	異常環境等	
		223	軌道装置		715	715	高温、低温環境	
		224	コンベア		716	716	その他の環境等	
		225	ローダー	9 その他	91	911	その他の起因物	
		226	ストランドルキャリア		92	921	起因物なし	
		227	不整地運搬車		99	999	分類不能	
		229	その他の動力運搬機					
23 乗物		231	乗用車、バス、バイク					
		232	鉄道車両					
	239	その他の乗り物						



STOP! 転倒災害

プロジェクト